

第23回 ちゅうでん教育振興助成（2023年度）

小・中学校の部 報告書資料

学校名・団体名	弘前市立裾野中学校
コース	学校支援コース
活動・研究のテーマ	地域理解と課題発見、社会参画と地域の発信に取り組む

〈活動・研究の意義および活動報告〉

1 活動に至る経緯

本校は「地域を思う学校日本一」を掲げている。学区には世界文化遺産「北海道・北東北の縄文遺跡群」構成の大森勝山遺跡がある。また、重要文化財の猪型土製品が出土した十腰内2遺跡などがあり、これまでも縄文遺跡を地域理解の核とした活動をしてきた。弘前は、桜や市中心部にある弘前城と城下町、洋館群、前川建築群は有名だが、これらに比べ、縄文遺跡は整備や利活用に課題が多い。そこで全校をあげて「学区の再発見」の複合的な学習活動を行うこととした。



2 活動の目的（ねらい）

本活動により、まずは「生活している地域」を知るために、地域の様々なモノやコトを見つめることで、地域の成り立ち、先人の歩みを把握し、また実際に現場を歩き、専門家に学ぶ学習活動も積み重ねるなどの、体験的な地域理解をめざした。その上で、他地域を知る活動を行うことで「私たちの地域」というアイデンティティの形成を育むことをねらった。更に比較の視点や俯瞰的な捉えを取り入れ、他地域との関係性や地域の成り立ちなどを複眼的、批判的に捉えることを目指し、教科横断的なSTEMA教育を目指した。

3 活動内容

I 地域を知る

(1) 岩木山周辺の生態系と熊について

…青森県自然保護課職員による講演講座

- ・熊の生息状況と生態
- ・熊と共存するには
- ・熊に遭った時の対処

(2) 清掃活動を通じて地域を見つめ、知り、考える

地域の道路沿いの清掃活動を行い、活動を通じて知った、地域の状態と今後の課題や取組を発表した。

(3) 地域の歴史を紐解く

① 鱒ヶ沢街道（弘前一鱒ヶ沢）の巡検 …弘前大学講師・福眞睦城氏による実習講座

- ・大森勝山遺跡はどういう場所で、なぜそこのか
- ・縄文以降はどうなったか
- ・地名と伝説で読み解く鬼伝説と信仰の道
- ・信仰の道から産業の道へ（鎌倉武士の歩いた道、殿様の通った道、経済を支える道、リンゴ以前の姿）



②弘前市立博物館所蔵品に見る裾野地区の歴史 …弘前市立博物館学芸員による実習講座

～猪型土製品（十腰内2遺跡）と巖鬼山神社鰐口、絵図に見る裾野地区を中心に～

(4)市立観光館の展示から裾野地区を探し、情報発信の可能性を考える

…市立観光館学芸員による実習講座

II 地域参画活動を通じて…体験から地域資源の利活用を考える

(1)地域清掃活動…体験を通して地域の現状をとらえ課題を探った。

(2)大森勝山じょうもん祭りへの参加…体験的に地域資源や遺跡の利活用の現状をとらえ課題を考えた。

①祭りの出演者として演舞 ②祭りを支えるスタッフ ③来場記念グッズの作成と配布



III 地域の伝統や職人に学ぶ

(1)こぎん刺し（津軽地方の伝統的刺し子）の製作実習…全校での製作実習と文化祭、公民館祭での展示

(2)郷土料理の調理実習…地元有名店の板長を講師に迎えての調理実習

郷土料理「イガメンチ」の調理を行い、背景と知恵や工夫を学んだ。

(3)津軽塗の体験…津軽塗職人に伝統工芸の技と職人の思いを学ぶ。

津軽塗の歴史や工程を学んだ後、工程の作業の一部を、職人から手ほどきを受けながら、伝統工芸やその職人の思いを体験的に学んだ。



IV 比較や批判的考察から課題を見つけ考察し提案（発信）する

(1)三内丸山遺跡と大森勝山遺跡の比較…三内丸山遺跡学芸員及びガイドの実習講座

①大森勝山遺跡と比較しながら三内丸山遺跡のガイドツアーに参加し、大森勝山遺跡の現状と課題について考察した。

②発表会を実施。マスコットキャラクター等、遺跡を生かし発信する提案。

(2)市立観光館の展示の批判的考察…観光館の展示における縄文遺跡や裾野地区の観光資源の紹介

①市立観光館の展示について、これまで学んだ地域の資源をどうアピールするか提案を各自行った。

(3)地元食材を生かした定食づくり…りんご加工工場見学と郷土料理の調理実習と体験の学びを生かして

①郷土料理に地元食材をどう生かせるか考察してプレゼンテーションを行った。

②地元食材を生かした創作料理を考えプレゼンテーションを行った。



4 成果と今後の課題

三内丸山遺跡と大森勝山遺跡の比較から、大森勝山遺跡の実情とこれからあるべき姿や課題について、議論を重ねながら、遺跡を抱える地域の一員としての思いとともに提案された中身は、今後さらに発展させ、情報発信と実践活動に昇華させるべき成果であった。

市立観光館の展示についての考察と提案からは、一連の学びの結果として、生徒一人一人が、地域を強く意識し、愛し、発信したい思いが感じられた。また、地元食材を使った定食づくりは、どれもユニークで、議論も盛り上がりを見せた。

本活動を通じて、改めて「郷土とは何か」を考え自覚し、自らの故郷への自負とともに、他者へのリスペクトや多様性理解につながったのではないかと考える。地域を思い、理解し、発信することができ、地域の担い手としての自覚や社会参画意識の涵養を図る良い機会となった。

今後はこの成果を礎に、地域との関わりをより活発にし、積極的に発信していきたいと考える。

